

飲食店など 研修に力

浜市内の飲食店などが外国人客のもてなし向上へ、英語研修に力を入れている。金沢を訪れる人は日本の歴史文化に関心が高く、より深く知りたいという要望に自分の言葉で応えようとする。北陸新幹線開業で、外国人客のさらなる増加が予想される中、外国語メニューを用意するだけの従来の対応から、一步懐に飛び込んだ接客が広がりだ。

金沢の文化、正しく」 懐華樓 馬場さん

ひがし 余屋街

し茶屋街にある茶屋「余屋」に6日、ドイツ

会社の重役が訪れ「ここから芸妓が登場する。茶屋を利用する介者が必要です」。案内しながら、馬場将が流ちょうな英語で、梁で頭を打つ「けがはないかしらこの家は」と冗談をこ、笑い声が広がった。

英語を学んで



ドイツ旅行会社の役員を英語で案内する馬場さん
＝金沢市東山1丁目

が知りたいことが詰まっている。自らの言葉で気持ちを入れて紹介したい」と話す。旅の醍醐味である、地元の人とのふれあいを提供したいという思いもある。懐華樓を訪れる外国人客は年々増えており、昨年は

もてなし向上



回転すしの「金沢まいもん寿司」などを展開するエムアンドケイ（金沢市）は昨年10月から、すし職人ら従業員向けの英会話教室を

回転すし店

ネタの説明習う 従業員向けに教室

始めた。開店前の朝の店内で従業員5人に外国人講師1人が付き、お勧めのネタの説明方法などを学んでいる。「この魚は朝まで泳いでいました」など、鮮度をアピールする粋な表現も覚えた。

同社の店舗では英語、韓国語、中国語のメニューをそろえているが、「より楽しんでもらうには、店員が直接説明することが不可欠」と担当者」と判断したという。

金沢百番街「あんど」にある金沢駅店は、一日に1、2組の外国人客が訪れる。田中靖久店長は「外国人客には今までセットを勧めていたが、単品での注文を受けることができるようになった」と手応えを語り、新幹線開業に向けて勉強を続ける意欲を示した。

外国人講師からレッスンを受ける料理人
＝金沢市駅西新町3丁目

和食の食べ方、文書に



海鮮料理の食べ方を外国語で紹介している中里さん＝金沢市青草町

近江町市場も外国人客に人気のスポットだ。近江町いちば館2階の旬彩和食「口福」では、英語が話せる従業員と中国人アルバイトを1人ずつ配置している。中里知店主は

「日本料理は説明がないと、十分に楽しめない部分もある」と話す。名物の海鮮ひつまがしの食べ方を説明した英文を用意したところ、好評という。

政府観光局によると、昨年に日本を訪れた外国人旅行者は2013年（1036万3904人）を大幅に上回り、1300万人を超す見込み。東京から富士山や京都を巡り、大阪に向かう「ゴールデンルート」の人氣が依然高いが、最近ではピーター客の訪日が増え、北陸にも目が向くようになっているという。

近江町市場

「金沢には外国人客が多かった」ことが決めた理由だ。馬場

2カ月留学
さんはもともと英語

話を介すと、金沢の